

## 第7回 千代川水系大規模氾濫時の減災対策協議会 議事概要

1 日時：令和元年 5月29日（水） 10時30分～11時30分

2 会場：鳥取河川国道事務所 1階 第1・第2会議室

3 出席者

（委員）

鳥取市 （市長代理） 危機管理部長 乾 秀樹

鳥取県 危機管理局長 西尾 浩一

鳥取県 鳥取県土整備事務所 事務所長 福政 孝啓

気象庁 鳥取地方气象台 气象台長 川上 徹人

国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所 事務所長 橋本 浩良

（オブザーバー）

八頭町 （町長代理） 防災室長 田井 信

4 議題

（1）規約の改正について

（2）取組実施内容・今後の予定

- ・「水防災意識社会」の再構築に向けた緊急行動計画の取組について
- ・取組内容のフォローアップ等について

（3）その他

5 議事概要

（1）規約の改正について

- ・特に意見なし。（改正について了承を得た。）

（2）取組内容のフォローアップ等について

- ・ダムについては鳥取県においても事前放流を行うこと、また早期の避難で死者をゼロにする取り組みを行っている。殿ダムの放流についての情報伝達については、今までの取り組みに加えて何かされるのか。
- ・今までの情報伝達を確実に行って行くことに加え、現在、操作規則・細則の見直しを行っており、今まで情報伝達先ではなかった報道機関（NHK）を加え、その他の民放についても今後拡充を行っていく予定。特にダムの計画規模を越えると想定される場合は、十分なリードタイムを持って鳥取市などの従来の機関に加え、報道機関にも情報が伝わるようにしていきたい。

- ・ 殿ダムは、利水容量を持っているが、事前放流の検討状況は。
- ・ 殿ダムにおいても事前放流の検討を行っているが、自然調節方式ダムであることから、効果が少なく、リスクも大きいため、事前放流については難しいと考えている。
- ・ 多機関連携型タイムラインについては、報道機関との関係を上手く盛り込んでいただきたい。
- ・ 多機関連携型タイムラインについては、報道機関に限らず、色々な方に検討会に入っただき、一緒に勉強していきたいと考えている。
- ・ 多機関連携型タイムラインの検討の参加メンバーは、誰にすれば良いか。
- ・ 日野川河川事務所を参考に検討し、後日説明させていただく。
- ・ 多機関連携型タイムラインについては、洪水だけでなく、土砂災害や内水による浸水も含めた様々な災害に対して応用可能なものになるとより良い。  
洪水だけに特化すると、他の事象が見えにくくなるのではないかと心配している。全てを詰め込む必要はないが、導入部やとりまとめ時に他の事象のことにも言及いただければ、応用可能となるのではないかと考えている。
- ・ 参考にさせていただく。
- ・ 減災対策協議会で色々な取り組みを進めていただき、ありがたいと思っている。
- ・ 大正地区をモデルに浸水表示板の検討いただいているが、昨年、一昨年の鳥取市の水害の関係で市民の関心が高まっている。是非、モデル地区を増やして検討していただきたい。
- ・ 国の河川の水位情報から出る警戒レベル相当情報と市の避難勧告等の警戒レベルでのタイミングや範囲にレベル差が生じる。これが住民の混乱に繋がるのではないかと危惧している。
- ・ 鳥取県の基準と内閣府の基準に差があることは承知している。我々としても住民に混乱が生じることを危惧しており、鳥取県の基準で運用されている鳥取市の警戒レベルに合わせる運用が望ましいと考えている。
- ・ 昨年の7月豪雨の際には、鳥取河川国道事務所長より市長宛に沢山のホットラインを頂いた。また、県や気象台からも災害時には随時連絡を頂いている。
- ・ 災害時には鳥取市は国管理の河川だけでなく、県管理河川、水位周知河川でない河川も監視しているため、現実的にタイムラインに沿っての対応は難しい。鳥取河川国道事務所長や県からのホットラインでの援助がないと市町村は、安全を守りきれないという思いがある。ホットラインについては、普段から顔の見える関係が重要と考えているのでよろしく願います。

### (3) その他

- ・ 特になし。

以上